

# どうとくのひろば



## 「家族愛」「生命」について考える

道徳の授業で学習する内容は項目ごとに分けて、学習指導要領に示されています。基本的に1時間の道徳の授業において、一つの内容項目についての理解を深めることをねらいとしています。しかし、1時間ごとの授業のつながりを意識して、内容項目を関連させながら学習を行うことで、より子供たちの価値理解を深め、自分を見つめることにつながります。4年生では、1時間は、「お母さんの請求書」、もう1時間は、「おばちゃん、がんばれ」という二つの資料を使って学習しました。

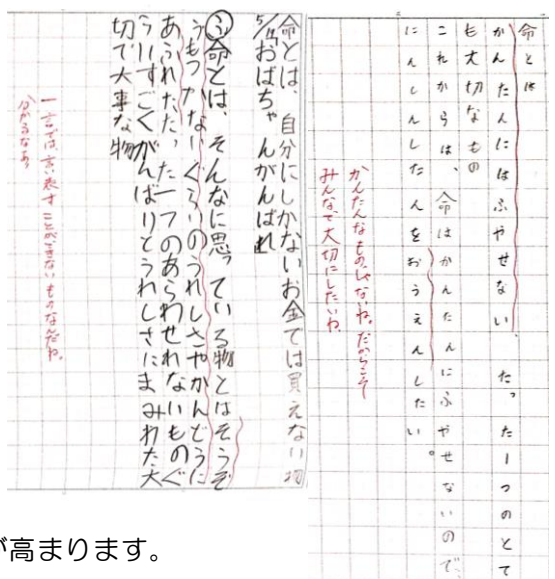
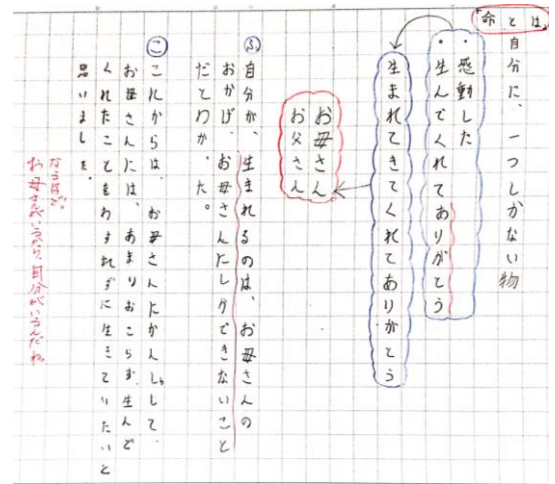
「お母さんの請求書」はたかし君とお母さんがそれぞれに請求書を出し合うお話です。まず、お手伝いなどを頑張った見返りとして、たかし君がお母さんに合計500円の請求書を渡します。それに対して、お母さんは、たかし君に看病代、洗濯代などについて、合計0円の請求書を500円とともに渡します。その請求書を見た、たかし君はお母さんへの思いを新たにしていこうというお話です。子供たちは、たかし君の気持ちの変化やお母さんの思いを想像し、自分のことしか考えていないたかし君と、家族のことを考えて行動しているお母さんの違いに気付いていきました。

しかしながら、子供たちにとって、お母さんの思いを十分に想像することはとても難しい様相が見られました。立場の違う他人の気持ちを想像するのは簡単なことではありません。そこで、次の時間に「おばちゃん、がんばれ」の資料を用いて、命が誕生することを家族がどのように考えているのかということについて考えていきました。自分の誕生の様子をお母さんやお父さんから聞くことで、自分の命について見つめていく主人公の心情や、実際の出産の様子や動画から、命が生まれることについての家族の思いを想像し、自分の命はお母さんやお父さんのおかげで存在しており、自分だけのものではないということ、家族は自分のことを心から大切に思っていることを感じ取っていました。

これらの学習を通して、自分の命や家族との関わりを見つめていきました。子供たちのノートの一部を右に紹介しています。

普段、当たり前にある家族や命というものについて、改めて考えてみる道徳の時間はとても大切な時間だと感じます。ぜひ、お家でも、お子様の誕生の瞬間の様子やこれまでの成長について、家族がどのように感じてきたのかをお話する場をとっていただければ、子供たちは自分の存在を認める思いを強くすることができるのではないのでしょうか。

「何かができるからすごいね」ではなく、「存在していることが尊いことなんだ」と伝えられると、子供たちの自尊感情が高まります。



道徳だよりへの質問・感想 ( )年 ( )組 児童名 ( )

